

きさげては順がはざるものをたいらげたまへど、勅ましくくけるとぞ、此國の神寶にして、皇統一種たゞしくましますこと、まことに是らの勅に見えたり、三種の神器世に傳ふこと、日月星の天にあるにおなじ、鏡は日の體なり、玉は月の精なり、劔は星の氣なり、ふかきならひあるべきにや、そもくかの寶鏡は、さきにゑるしはべる石凝姥命の作りたまへりし八咫の御鏡、玉は八坂瓊の曲玉、玉屋の命作りたまへるなり、劔は素戔嗚鳥乃尊の得たまひて、大神に奉られし藁雲の劔なり、この三種につきたる神勅は、まさしく國を手持ますべき道なるべし、鏡は一物をたくはへず、私このろなくして、萬象を照すに是非善惡のすがたあらはれずといふことなし、そのすがたにまがひて感應するを徳とす、これ正直の本源なり、玉は柔和善順を徳とす、慈悲の本源なり、劔は剛利決斷を徳とす、智惠の本源なり、この三徳を翕受すしては、天下のをさまらんことまことにかたかるべし、神勅あきらかにして、詞つゞまやかにむねひろし、あまさへ神器にあらはしたまへり、いとかたじけなきことにや、中にも鏡を本とし、宗廟の正體とあふがれたまふ、鏡は明をかたちとせり、心性あきらかなれば慈悲決斷はその中にあり、またまさしく御影をうつしたまひしかば、ふかき御心をとゞめたまひけむかし、天にある物、日月よりあきらかなるはなし、よりて文字を制するにも、日月を明とすといへり、我神、大日の靈にましませば、明德をもつて照臨したまふこと、陰陽におきてはかりがたし、冥顯につきてたのみあり、君も臣も神明の後胤をうけ、あるひはまさしく勅をうけし神達の苗裔なり、たれかこれをあふぎ奉らざるべき、この理をさとり、その道にたがはずば、内外典の學問もこゝにきはまるべきにこそ、されど此道のひろまるべきことは、内外典流布のちからなりといひつべし、魚をうることは網の一目によるなれど、衆目のちからなければこれを得ることのかたきがごとし、應神天皇の御代より儒書をひろめられ、聖徳太子の御時より釋教をさかりにしたまひし、これみな權化の神聖にましませば、天